

令和5年度 地域教育・行政部会 成果報告

1. 目標

「生きる力」を育むため、地域社会と連携し、体験学習等を行なうとともに、地域教育資源の開発、活用。地域ぐるみで児童、生徒のキャリアを育てる活動を推進する。

2. 基本方針

経験や体験活動を通して、人や社会と関わり人間関係形成能力を育成する

- (1) 「生きる力」を育むために、キャリア教育の視点を踏まえた体験活動を行う。
- (2) 文化継承活動、子ども会活動、地域体験活動、スポーツ少年団活動への積極的参加を推進する。
- (3) 地域全体で教育環境の改善に取り組むために、地域教育資源の開発を行い活用する。

3. 令和5年度の取組事項

(1) 各種団体との情報交換や連携を図る

- ① 職場見学、職場体験への協力支援（伊江村型就業意識向上支援事業との連携）
- ② 子ども会活動や区長会等との連携（文化継承活動・地域体験活動）
- ③ 地域ボランティアとの連携（地域教育資源の活用）

(2) 地域との連携を通し、自己肯定感を高める（家庭教育部会との連携）

- ① 地域行事への積極的参加・支援
- ② スポーツ少年団・部活動への積極的な関わり

4. 令和5年度活動報告

月	令和5年度活動報告	活動実施場所(方法)
5月	ゴミゼロクリーン作戦 2023チャレンジデー	村一円 ※開催中止
6月	第1回 村学推企画員会 子ども会育成会協議会	6月19日 改善センターホール 6月20日 改善センターホール
7月	各区対抗水泳大会 子ども会地域体験学習	※開催中止 7月26日東江上区 7月30日東江前区
8月	夏休み子どもエイサー教室 子ども会リーダー研修 子ども会地域体験学習	8月14、21、23 のべ86名参加 8月18日 読谷村子ども会交流 8月24日 ジーマミ収穫体験 8月11日西江上区 8月13日阿良区 8月15日西崎区 8月22日真謝区 8月26日川平区
9月	運動会・青年エイサー指導 伊江村陸上競技大会	伊江小・西小学校体育館・運動場 9月17日伊江小学校
10月	子ども会リーダー研修 両小5年生への村踊指導	10月26日、30日 8月に収穫したジーマミを使った オリジナル商品の考案
11月	伊江村駅伝大会 子ども会地域体験学習 第2回 村学推企画員会 子ども会リーダー研修 ゆり球根植え付け体験	11月3日 11月5日西江前区 11月20日改善センターホール 11月23日ジーマミソ調理 11月27日ジーマミクッキー調理(伊江島家族加工所) 両小3年生
12月	12月3日チューパンジャまつりにて子ども会ステージ、紙面掲示、リーダー研修	村子ども会ステージ・自由演技(村踊、合唱、ダンス) 子ども会活動の手作り紙面掲示 ジーマミソ、ジーマミクッキー販売(完売)
1月		
2月	第2回 村学推企画員会	2月29日改善センターホール
3月	子ども会リーダー研修 各区子ども会総会	お別れ研修 各区役員引継等

5. 成果と課題

(1) 各種団体との情報交換や連携を図る

- 伊江村型就業意識向上支援事業と連携し、6年生から中学3年生まで学年ごとにカリキュラムを学び「力強く生きる力・自律的キャリア感覚を持って島建ちできる子ども達」の育成を図ることができた。
- 両小5年生へ「伊江島の村踊」を地域ボランティアが指導し、学習発表会で披露することで、民俗芸能の保存・継承が図られるとともに郷土芸能への関心、愛着心を育むことができた。
- 各区において子ども会育成会が連携し、子ども会活動を推進することができた。様々な活動を通して心と身体を育み「郷土愛の醸成」「生きる力」を養うことができた。初めての試みとして「チューパンジャまつり」にて各区子ども会の舞台発表、活動内容を紙面にまとめ掲示した。活動内容を地域と共有することで交流が図れた。
- 地域体験学習は、全字の子ども会が実施することができた。コロナ禍が明け各区様々な内容で有意義な体験学習ができた。
- 各区子ども会リーダーに対し研修を実施し、リーダーシップを育んだことで、自区においての活動等で中心的になるリーダーを育成することができた。
- 各活動において地域ボランティアと連携し体験学習を行ない、地域、世代間の交流を図ることができた。
- 各区において、子ども会リーダー、育成会役員が中心となり各活動を推進できた。次年度もリーダー、役員が中心となり、会員が協力し各活動を推進していく。
- キャリア教育で学んだ内容を地域と共有することができなかった。地域と共有できる方法を検討する。
- 平和学習の語り手など後継者育成、地域人材の発掘を行う。

(2) 地域との連携を通し、自己肯定感を高める（家庭教育部会との連携）

- ゴミゼロクリーン作戦や村陸上大会、駅伝大会など地域行事に積極的に参加し、世代間の交流を図り地域活動の活性化を図ることができた。
- スポーツ少年団、部活動を通して自己肯定感を高めることができた。

6. 方向性

- 今年度はコロナ禍が明け、積極的な活動が行えた。地域と連携し各行事を展開したことから【令和5年度全国学力・学習状況調査】では地域行事への参加率や地域に関連した質問への回答が、県、全国平均より高く、肯定的な意見が多い結果となった。次年度も引き続き、子どもたちが主体的に考え、大人がサポートする体制を整え、互いに学べる体験を企画・実施し、地域ぐるみで「生きる力」を育み「15の島建ち」教育に向けて取り組む。